妙教寺だより

第30号
平成23年　元旦

敬頌
新禧

平成二十三年
松柏木辛卯歳
元旦

年頭のご挨拶

妙教寺第七世
元寛園教会第五世
順信院日薫
荒木英知

新春の
慶賀自他甚深甚深
「清澄寺大衆中」

初心の「信」こそ肝要

辛卯歳の新春を迎え、謹んで賀詞を言上し、心から御悦び申し上げます。

昨年は、檀信徒の皆様より、當山の護持興隆の為にご浄財喜捨を賜り、又、諸行事のご奉仕など、種々の高配に対し心から御礼申し上げます。

日蓮大聖人さまは、新年について、清澄寺大衆中へ宛てられた御書に、「新春の慶賀自他甚深甚深」と新春を迎え慶賀申し上げられ、今年こそ、仏法の邪正が糺明（きゅうめい）される年だと、お慶び遊ばされておられます。

宗祖の、教意は、「成仏得道」のためには初心の「信」こそ肝要であり、信なくして成仏得道は叶わないとまで云われている。

それは、此の経、すなわち法華経が最も勝れ諸経中王の経なるが故であって、爾前権教（法華経以外の経典）では、たとえ信があっても成仏得道は叶わないのであります。

まさに、身口意三業の振る舞いが人々を救い、種々の利益を与える「法華経の行者の妙徳」を、法界無辺の時空を超え、正月についての、悦びの御境地の一分と、一切について「初め」を尊ぶべきと、その節目の大切さを（譬喩品）具体的に教導されているのです。

お清正公様へご報恩

さて、昨年は、御清正公様が入涅槃され、已来、月変り、年移りて四百年の祥当年の節目をむかえ、八月二十二日、加藤清正公菩提寺「肥後本妙寺」様をお迎えし、「宗祖日蓮大聖人御生誕八百年」記念事業の一環として、「清正公ご入滅第四百年御遠忌出開帳法要」を、皆様方のご支援ご協力を賜り、奉行出来ましたこ

とに、ここに厚く御礼申し上げます。

肥後本妙寺　池上尊儀名代をお迎えして、厳粛の中、出開帳法要は営まれた。

お清正公さまは、九州入封の妙縁により、九州一円中の筑前の地、當山妙教寺にも、法華経結縁の大果を与えて下さいました。

私共に、お清正公さまの徳が顕れ、「お題目の神秘」や「神通の霊力」を受け、現代医学等で解明出来ないことなどから生ずる因縁業障などの病脳や苦悩を滅除するおおいなる功徳を、今に伝え残されているのであります。

特に、先代日貫上人や坊守より信仰の導きを受けられ、救われる人々は、実に数えるところを、知らざるが如く、ご支配を賜るに及んでいます。

成仏得道の善行の真

今般、一、御清正公四百年遠忌の「ご報恩会」を奉行できたこと。二、妙教寺檀信徒一同として、ご浄財金、壱百萬円を「本妙寺復興支援金」としてご寄進申し上げることができ、清正公さまへの「報恩行」と自らの、「成仏得道のため」の善行の真を奉げる事が出来ました。

さらに、日蓮大聖人の千日尼御返事に、「御（おん）志ぞ、大地よりも厚く、大海りも深き、御志ざしぞかし。」とお示しの如く行えば、自ずと徳が顕れていくことでしょう。

檀信徒を代表して、筆頭総代村上夘三氏より、復興支援金を本妙寺様へ手渡された。

この度、善根功徳のご志納をご寄進下され結縁を成就されました、檀信徒の各位並びに、開帳拝礼の皆様に対して重ねてお礼申し上げます。

法器養成をめざす

最後に、一昨年来、皆様の御支援を賜り、宗祖御降誕八百年の慶讃記念事業が新たな一歩をふみだしました。

本年度の事業計画の一つとして、「徒弟育成」の目標を掲げるとき、昨年度は、當山の高野執事長が、皆帰妙法への道に邁進することを誓い、教宣拡張の研鑽のため、日蓮宗九識霊断法相伝に受講し二級霊断師の秘法を感得するなど、また、徒弟一名が、本年四月、総本山身延山で宗門が開催する、僧侶としての資格を取得する為の「信行道場」入場を志しています。

また、将来弟子等には、毎年十一月大本山中山法華経寺でに開設される、三大荒行の「日蓮宗大荒行堂第初行修行入行」に志してもらいたいと考えております。

しかしながら、平素の「つとめ」の読誦の修行を蓄積し

ても、あまりにも過酷な苦修練行の極限の修行でありますので、日蓮宗宗門の規則は大変厳しく、僧侶・修行者としての法器に相応しいかが問われます。

特に，日蓮宗大荒行堂入行については、

一、日蓮教学の習得と言説布教の度量

二、法華経一部経の読誦力の度量

三、道念堅固の信仰心の度量

四、人格品位と一般教養の度量

五、檀信徒教化の経験と指導力の度量

六、精神専門医により修行に耐えうる精神力のカウンセリング

七、専門医により修行に耐えうる体力の診断

など、宗規にのっとり、試験考査等と実務審査や専門医による診断が行われます。

このような、身体、精神ともに極限まで追い込み、自我も生命もすべて諸天善神にお預けし、黙々として「懺悔滅罪」する修行であり、身命に及ぶ難行苦行でもありますので、特に、本人の意思を尊重し慎重な配慮をすべきや、時機尚早ではないかと、一部の役員方より不安の声起こりといえども、師範としては、求道心を精進する弟子方に、一遇の仏縁に結縁成就を期待するところです。

今後、弟子らが、初心の「信」を貫き、妙教寺の諸天善神さまのお加護を賜ることができ、また、道念堅固で自ら志す専心修行の決意が定まり、誓言の意思表示の申出の如何によって、本総代会や慶讃事業委員世話人会並びに、檀信徒総会で、各々が胸中に秘たる求道心の誓言の意を宣誓し、檀信徒の皆様のご賛同を頂ければならないと存じます。

認証を賜る修行を

これから、両師の弟子等が誓願をたてた、その初心の決意に対しての対応については、皆様のご承認とご支援をいただければ、日蓮宗宗規にのっとり、その諸手続き願書類等を整えて、當山正・副干与人の各お上人の同意を賜り、正式に願書を宗務院へ提出したいと存じます。

その後は、宗制の通り、県修法師会長並びに県宗務所長へ申請し、試験考査と実

2021年（平成33年）

宗祖日蓮大聖人御生誕800年

2028年（平成40年）

妙教寺開基開創150周年

務審査や専門医による診断が認可されたとき、ただちに、申請書を宗務院に提出し、日蓮宗総長の認証を得なければなりません。

これから、當山にとっての法器養成、人材養成は重要な課題であり、徒弟育成の支援等の事業を掲げながら、本年度の計画案の対応について、両師の弟子等に誓言の意を宣誓する機会を与えて下されば、順次、総代世話人会や慶讃事業委員会にはかり、ご相談申し上げていきたいと存じます。

本年もまた、檀信徒の絶大なるご理解をいただき、各位の一層の御支援御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げ年頭の御挨拶といたします。

南無妙法蓮華経

各会役員挨拶

筆頭総代

村上　卯三

平成二十三年の初春を迎え妙教寺檀信徒の皆様方へ一言ご挨拶を申し上げます。

平成二十二年も妙教寺檀信徒各家の夫々（それぞれ）の皆様方のご理解とご協力の下（もと）、滞（とどこお）りなく諸行事を終える事が出来ました事に喜びと感謝の念で一杯でございます。

この半年を顧みますれば、昨年の夏は猛暑を通り過ぎ酷暑と、いつまでも続く残暑の日々でした。皆様の中にもご体調を崩された方もいらっしゃったのではありませんか。

信行会に参加する村上筆頭総代（左手前）

そのような中、当山妙教寺をはじめ志賀島別院（元寇園教会）・三沢お清正公堂等の大掃除、八月二十二日には、宗祖御生誕八百年記念事業の一環として執り行われた、お清正公（加藤清正）様の四百年遠忌記念出開帳法要が奉行されました。記念法要には、肥後　本妙寺（加藤清正公菩提寺）よりお清正公様御神体と共に、主管猊下ご名代として、副住職　池上正示上人、執

新年明けましておめでとう御座います

平成二十三年　卯歳元旦

妙教寺　筆頭総代

護持会会長　村　上　卯　三

事長　後藤上人にご来寺賜り、
西筑組参事　宗像市妙経寺
　　高寄泰道僧正
筑後組参事　久留米妙正寺
　　田中潮佑僧正
朝倉市大安寺
　　秋吉英守上人
唐津市龍王寺
　　福山浄瑛上人
にご出仕を頂き、荘厳且厳粛に開催することが出来ました。これも偏に檀信徒の皆様方のご協力があればこそと感じる次第です。

九月二十九日には、西門中会行事「お題目のつどい」が朝倉郡小石原　妙隆寺様で行われ、当山より約十五名の参加を頂き参加者皆、より一層信仰を深めることが出来ました。

年末総供養施餓鬼会では、恒例の当山信行会主催　特別講演（法話会）が行われ、今回は、日蓮宗霊断師会本部講師で熊本県球磨郡　栄立寺御住職　村井信照上人に遠路お越し頂き、私達自らの心の懺悔についてお話を頂きました。

私自身、お話を聞いて心に感じる所ばかりで、深く反省させられました。

このように当山において、昨年も活発に信行活動や菩薩行が行われましたことは、今は亡き日貫上人、日賢上人様方もさぞかし御満足なされておられる事と存じます。

又、各家の御先祖の諸々霊の方々も、お喜びの事と思います。

平成二十三年も私達檀信徒一同挙（こぞ）って心を一（いっ）にして私達の菩提寺妙教寺を護持し、これからも檀信徒各家が平和で、ご家族の方々が益々健康と御繁栄されますことを祈念致し年頭のご挨拶に代えさせて戴きます。

合　掌

婦人会会長　古賀　静枝

新年明けまして
おめでとうございます。

昨年度は妙教寺の諸行事にたくさんの方々がご参加頂きました事、心より感謝いたしております。

本年も婦人会主催の寒修行を一月二十三日に執り行います。

皆様とご一緒に力強いお題目を唱えたいと思います。お寺へお参りいたしますと自然に心が穏やかになり、素直になり落ち着きます。

人は決して一人では生きていかれません家族や周りの方々に支えられ乍ら元気に生きていけるものだと思い皆様に何時も感謝しております。

12/27 餅つきに参加され、餅を丸める古賀会長（右手前）

一人でも多くのご参加をお願い申し上げます。

皆様と一緒にお題目によって明るい未来を切り開いて行こうではありませんか。

南無妙法蓮華経

信行会会長

植村　俊親

新年明けまして
おめでとうございます。

本年は辛卯年でウサギのかわいらしさをもっとうに生きたいものです。

去年は菅内閣の失敗続出、尖閣諸島の暴発、世界の金融続落危機的問題、暗い話が続きました。

日蓮大聖人御妙判、立正安国論を取り上げた、新聞を次に紹介します。勇気と自信を持つて邁進して参りましょう。

「三界はみな佛國なり。佛國それ衰えんや」

「現実社会を離れて佛國＝浄土はない」飢饉と疫病がもたらす地獄の惨状から筆を起こす「立正安國論」で日蓮聖人はこう断言された。こうした信念に基づき、陰惨きわまりない現実世界を永遠の浄土に変えていくことを自身の生涯の課題とした。

一見リアリストに見える日蓮上人の思想の根底には、自身の変革を通じて周囲の環境そのものを改造できるという、強烈な楽天主義がある。

団扇太鼓を叩いて唱題行をする
植村信行会会長

人の悪意や獣性がもたらす地獄は、いつの時代にもどの地域にも存在する。今の日本も例外ではない。毎年三万人にも上る自殺者。死を選択せざるをえなかった彼ら／彼女らを取り巻く環境は、地獄以外のなにものであろうか。

人間の悪と現実の悲惨を直視する日蓮聖人は、同じ人間に、世界を変えることの出来る無限のエネルギーを見出した。暗い話題ばかりが巷に溢れる今日、私達に必要なのは文字通りの自信と、信念を行動に移すための少しばかりの勇気なのかも知れない。

（東北大教授・佐藤弘夫、読売新聞11月29日付）

南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経

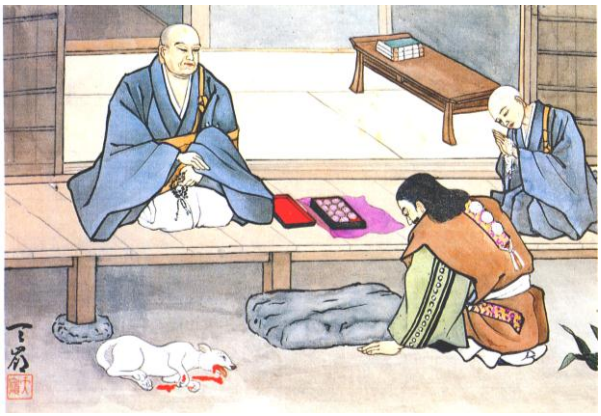
早い仕事より確かな仕事、技術と信用の
(有)臼井組
建設業
〒811-2108 福岡県粕屋郡宇美町ゆりが丘4-3-9
TEL 092－932－7397

日蓮大聖人のおことば ⑦

光日房御書

それ、針は水にしずむ。
雨は空にとどまらず。
蟻子を殺る者は地獄に入り、
死屍を切れる者は悪道をまぬがれず。
いかにいわんや、人身をうけたる者を
ころせる人をや。
但し大石も海にうかぶ、船の力なり。
大火もきゆる事、水の用にあらずや。
小罪なれども、懺悔せざれば悪道を
まぬがれず。
大逆なれども、懺悔すれば罪きえぬ。

（聖人五十五歳身延にて）



法力争いで敗れた真言の修験者「善智法印」は毒入りぼた餅で日蓮聖人を毒殺しようとしたが失敗した。しかしその後、心から悔悟（かいご）し日蓮聖人に許しを頂き弟子となり日伝の法名を与えられた。

仏教では「懺悔」と書いてサンゲと読みます。サンゲとは自分の罪や過ちを、仏様の前で告白して許しを乞う行いです。

私達は日頃よりお釈迦様の説かれた教え「法華経」をお唱えしております。その中に人間は仏になる本性を皆持っていると説かれています。

しかし人間は心の中に迷いや煩悩があり仏になる本性があってもその本性を充分発揮することが出来ません。この心が迷いや煩悩から起こる行い「貪・瞋・癡」の三毒が元となって知らず知らずの間に悪い行いをし、「悪業の因縁」を作ってしまい廻り廻って自らの身を滅ぼしてしまうのです。

上の御遺文は日蓮大聖人が五十五歳の時「光日房（光日尼）」に宛てられたお手紙です。光日房は、息子の弥四郎が大聖人に帰依したのをきっかけに入信した人です。

佐渡御赦免から後、身延へ入られた日蓮聖人のもとに、同郷の光日房から便りが届きました。望郷の念を熱く

懐かれていた聖人は、この便りをことのほか喜ばれました。

しかしその手紙を読んで愕然とされました。光日房の息子であり、若き日より熱心に信心を貫いていた弥四郎が逝去したとの知らせだったからです。

聖人は最愛の息子を失った光日房の悲嘆を慰めるとともに、法華経を信仰するが故に惹起する法難は諸天の加護により必ず乗り越えることが出来るとの確信を綴り、光日房の一層の信心を励まされた。

中でも武士として多くの人を殺した弥四郎が果たして成仏できるだろうかとの光日房の質問に対し聖人は「たとえ悪人であってもその罪を懺悔し、法華経を信ずれば必ず成仏することができる。特に母親を法華経に導いた孝養の息子が成仏できないはずはない」と断言されました。

仏説観善賢菩薩行法経の中に「**一切の業障海は皆妄想より生ず、端坐して実相を想え、衆罪は霜露の如し、慧日よく消除す**」とあります。

我々の毎日におこる出来事を一切の業といい、その業が原因となった業障は海の水のように多く、その業は妄想といって、小さな自分の利害損得より起こるのです。

しかし、冷静になりよく考え、自分の行いを反省し懺悔するならば、朝露が日に照らされて消えてなくなるように、必ず除滅されていくものです。間違った心があった時は、素直に反省し懺悔しなければなりません。

（日蓮大聖人御一代記他参照）

信行会より

仏事作法（お数珠について）

〃お数珠とは〃

数珠は「誦数・誦珠・呪珠・念珠」とも書き、西暦二～三世紀のころから使われたといわれています。もともと念誦の数を数える『数とり』の道具でしたが、これを用いると、悪心をおさえ、すべての煩悩を滅除し、このうえない功徳が得られるという大切な法具です。

一、数珠の種類

数珠には装束数珠と勤行数珠（普通仕立）があります。

装束数珠は房が広がっていて（導師房）、白水晶で作られた長連の本装束と、その他の珠で仕立てられた長連の半装束がありますが、どちらも僧侶が使う数珠です。

勤行数珠は一般用の数珠で、房が丸く（菊房・玉房）なっています。

菊房

また、房の長さは普通の長さの短房、少し長い中房、長い長房があります。中房と長房は、ご祈祷をする僧侶（修法師）が用いる数珠です。

二、珠の材料

珠の材料は香木・梅・黒檀・菩提樹・水晶・真珠・珊瑚・象牙・石・など多種多様ですが、昔から白水晶が最上の珠といわれます。

ただし、檀信徒の数珠は、自然木や木の実などが良いでしょう。

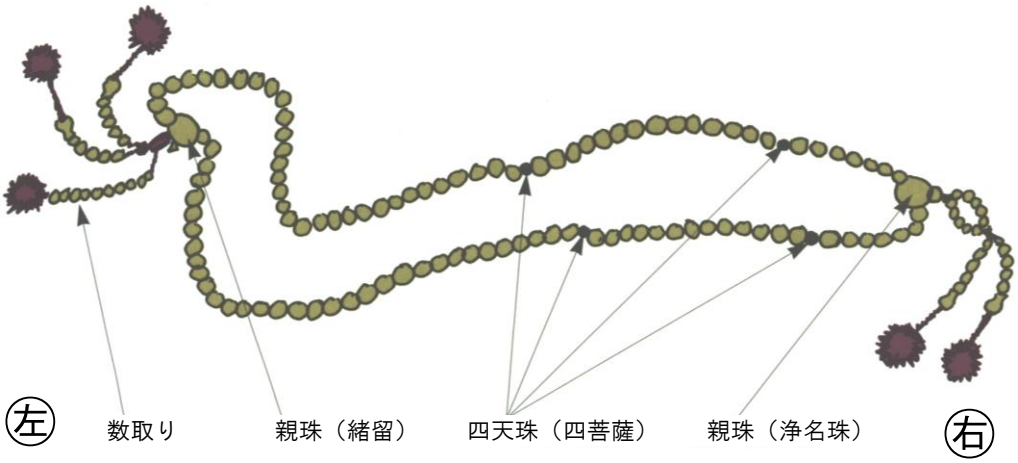
三、珠の数

大きな珠（親珠）　二個
小さな珠（四天珠）四個
普通の珠　一〇八個
（両脇の数取り等の子珠は含みません）
合　計　一一四個

四、珠の名前

大きい珠の部分は親珠（拇珠）といい、右の親珠を浄名珠といい「釈迦牟尼仏」、左の親珠は数珠を留めるところから、緒留ともいい「多宝如来」を表しています。小さな珠の部分は四天珠といい、上行・無辺行・浄行・安立行の四菩薩を表しています。また、左側にある三本の子珠の形の違うもの（十個の子珠）が日蓮宗独特の「数取り」呼ばれるものです。

お数珠の名称



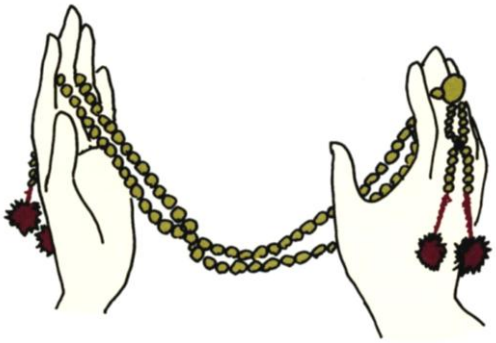
五、持ち方

普段は図のように数珠を二重にして房を下にし、左手に掛けて持ちます。合掌をしたり、お経本を持つのに便利です。

また、法華和讃を奉詠する時や歩く場合には、数珠を二重にして左手首に掛ける事もあります。

勧請・唱題・回向というお参りのうちで最も大切なときには、親珠を両方の中指の第一関節に、数珠を一度ねじってから（あやにする）そのまま両手を自然に合わせます。数珠の房は二つ房のほうを右手に、三つ房が左手にくるようにします。

「右手」み・ぎ　＝二本（二つ房）
「左手」ひ・だ・り　＝三本（三つ房）



と覚えると良いでしょう。

数珠をこすって音を出しながら拝んだり、首に掛けるのはやめましょう。

六、合掌のすがた

「掌」は「たなごころ」、つまり合掌は手のひらを隙間なく合わせることです。両手を合わせてほかになにもできないことを示し、一心に祈る礼拝の姿なのです。

インドでは、右手は清浄（神聖）左手は不浄（凡夫）を表します。この二つの心が帰依（南無）することによって、仏さまと私たちが一つになれるといわれています。

お経本を持ちながら片手合掌の姿をしている人を見かけますが、これは合掌ではありません。お経本は両手で持ちます。

また、片手で太鼓をたたくときの空いた手は太股の上におくよう指導してください。

★お数珠とひと口でいっても、宗派によっていろいろと特徴があって違いますので、代表的なものをご紹介いたします。

【日蓮宗の数珠】

勤行数珠（一般）　装束数珠（僧侶）

真言系　禅宗系　浄土宗　天台宗

〃焼香のしかた〃

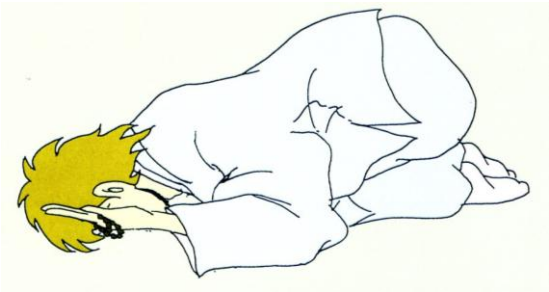
香りを供養することは仏教の大切な行為です。この供養には三種類あります。

◇塗香・・・・香を塗り身体を浄める

◇焼香・・・・香を焚いて供養する

◇華香・・・・生花をまいて供養する

日本へは六世紀の奈良時代に、中国からもたらされ、最



伏　拝＝手のひらを水平に上に向けて耳につける数珠は手のひらに乗せるように

初は抹香（粉末）や煉香（合香）のようなもので、からだのにおい消しとして一般化していきました。

【焼香の回数】

※導師が三回（仏法僧の意味）

※一般は心を込めて一回

お焼香の回数と線香の本数

お焼香の回数や線香の本数については

一回・◇すべての祈りをこめて

（一本）◇亡くなった霊が迷わぬよう

◇一心不乱の意味をこめて

三回・◇「過去・現在・未来」の三世諸仏

（三本）◇「仏・法・僧」の三宝に帰依

◇「御本尊・日蓮聖人・先祖」供養

など、いわれておりますが、一番大事なことはいったい何に対して「香」を奉げるのか考え、心をこめることでしょう。

また、周りの状況を判断し、大勢の場合は一回（一本）にするのが常識です。

■各宗派の回数と本数

◇焼香の回数

日蓮宗＝導師は三回、一般は一回

真言系・浄土宗＝三回

禅宗系・浄土真宗大谷派＝二回

◇線香の本数

日蓮宗・真言系＝三本

浄土宗・浄土真宗大谷派＝二本

禅宗系・浄土真宗本願寺派＝一本

（浄土真宗はお線香を立てずに横に寝かせる）

（すじゃあた第二号参照）

質問コーナー“お上人教え

Q 亡くなった祖母が冬のあいだ仏壇の日蓮聖人様の頭に綿帽子を掛けていたことを思い出しました。なぜ、冬になると綿帽子を掛けるのですか？

また、掛ける期間も教えて下さい。

A この質問は、各家にお参りしたときに、よく聞かれますので、お答え致します。

文永元年（一二六四）十一月十一日の夕方、日蓮聖人がふるさとの病気の母を見舞ったあと、信徒の安房（今の千葉県）天津領主・工藤　吉隆を訪ねようと小松原を通りかかったとき、聖人を念仏のかたきとねらう地頭・東条景信が襲撃、弟子の鏡忍房や工藤　吉隆らが討ち死にするなか、東条　景信が馬上から切りかかり、聖人は数珠でこれを払いのけたため、眉間に少しのきずを負っただけで難をのがれた、と伝えられています。

このときの聖人のお傷をいやすため、冬のあいだ、お仏壇のなかの日蓮聖人のお像に綿でお帽子をかぶせる伝統があります。

綿帽子を掛ける期間は、地方によって異なりますが、一般的に、法難の日に合わせ、十一月十一日から春の彼岸までが、多いようです。

（同朋舎出版布教資料参照）

投稿欄

“清正公大尊儀 第四百年遠忌法要を行って”

総代　植村　俊親

日蓮大聖人御生誕八百年記念事業立ち上げの為に新に準備委員会を開催し、委員に

乙金地区　伊藤　敏夫　様
春日地区　白水　繁則　様
昇町地区　田中　明彦　様

にお願いし、準備委員会を立ち上げることが出来ました。

本年はこの事業が発展していく歳であります。

皆様とご一緒に頑張りましょう、先ずその一環として、昨年加藤清正公四百年遠忌記念法要が奉行されました。菩提寺　本妙寺住職代理　池上　正示上人様にお願いし御本尊を妙教寺までお連れ頂きご開帳頂きました。その際檀信徒の皆様には多大のご志納を頂きました、その仔細は別途会計報告を総会の折にさせていただきます。

清正公について、少し述べてみましょう。

法華信仰で知られる加藤清正公は、豊臣秀吉のもとで活躍し肥後半国十九万五千石、関が原の戦いの後には肥後一国五十四万石の大大名となった。清正は慶長十六年五十歳で没し、子息忠広が二代藩主を継ぐが寛永九年忠広は改易されて出羽庄内に流され承応二年同地で没した。忠広の子光正も飛騨に流され早せいし加藤家は断絶するに至る、徳川幕府によると豊臣系大名の一掃であつた。

このような中で清正公は、武勇の将、仁慈の領主として次第に尊崇され、法華経信者の守護神「清正公大神祇」として信仰を集め没するにあたり熊本城と同じ高さの山、中尾山にご遺言により葬られました城内の本妙寺が消失すると本妙寺はその菩提を弔お寺を中尾山の中腹に建立しました、それが現在の本妙寺です。

肥後藩民に戦時中は戦勝神、戦後は民意の神として祭られた。その治山・治水灌漑事業で領国と領民護ったために領民に「おせいしょうこうさま」いまも「頓写会」に参拝する人の数その凄さは参拝しないと判りません。

人の安全・車の保安・真心サービス
スピーディをモットーに
民間車検・国土交通省指定整備工場
井上自動車株式会社
本　社　福岡市博多区麦野１丁目1－38
電　話（581)4607･3089　〒812
ＦＡＸ（581)４７９６　-0882
第二工場　福岡市博多区井相田２丁目3－25
電　話　５７１－７３７６
全国ネットワークのロータス優良メンバー工場

“圓頓寺法燈継承式に参加して”

総代　花田　正月

志賀島別院盆前大掃除にて
つくばいを掃除する花田総代

圓頓寺法燈継承式に参加しました。四百年を越える由緒ある圓頓寺の式を目の前にしその厳かを拝見し感無量になりました。

稚児行列や檀信徒さんの心意気、盛大にして厳かな法燈継承式、古いというだけでなくその豪華なお寺が滲み出るものは四百年の中にあるもの充分に心の隅々まで映し出していました。

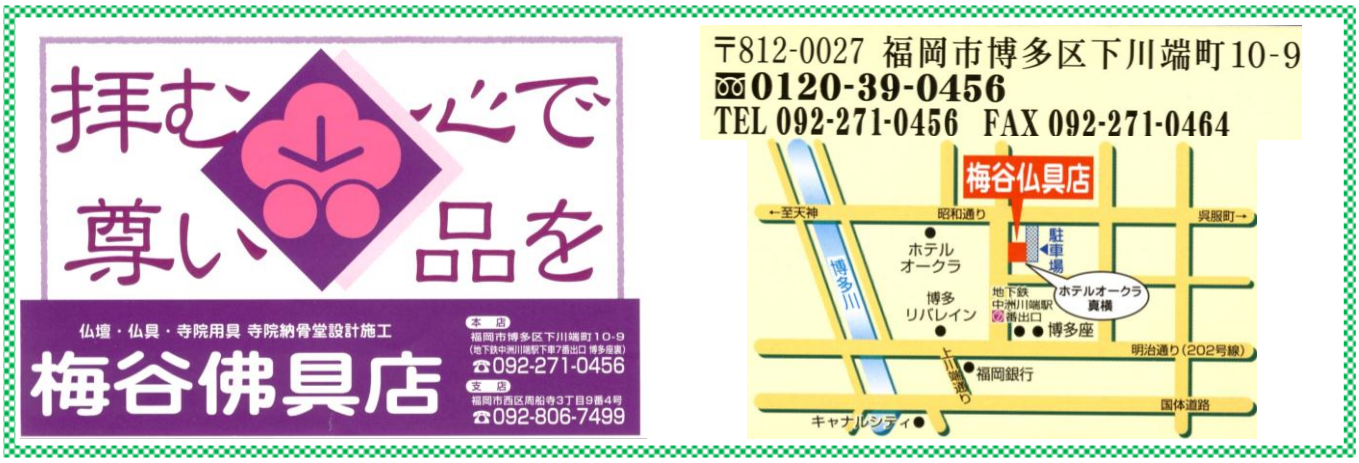
住職から新住職へ払子を手渡たす。

役員先導のもと 42 名の稚児を
連れて、山門に入る新住職

住職上人が長年に亘り培ってこられた精神が現れていました、妙教寺を出られて歴史ある圓頓寺様に迎えられてから三十六年になられるそうです、一口に三十六年とは申しますが、その苦労は並たいていではなかったでしょう。なれない土地で良く辛抱努力されたものだと感心致しました。その甲斐あって檀信徒の方々からの信頼と尊敬は計り知れないものでしょう。

お上人様には、すでに当山妙教寺のご住職として、日々ご法務をお努めされておられますが、当山におきましても、宗祖御生誕八百年事業の一環として、新にご住職をお迎えをした、という区切りを「入寺式」という形で執り行いたいと考えており、現在、役員一同会議を重ね色々と意見を出し合っています。決りましたら皆様にもご報告ご案内させて頂きます。その折には、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

南無妙法蓮華経



上白水地区

原田　義規

平成 22 年新春福引き大会で
住職上人賞の自転車を受取る

初めて妙教寺の初講　星祭り大祭に参加させて頂きました。

法要が終わり福引き大会が始まりました。司会のお上人が番号を発表されるたびにどきどきしました。まさか当たらないだろうとは思いながらも、心は正直に期待でいっぱいでした。

そして、最後に自転車の当たり番号を発表されたとき、やった！と心からうれしく思いました。

ありがとうございました。

先日、熊本旅行に行った時、日蓮宗の本妙寺にも寄ってお参りして来ました。山の上の方にあり、静かでとても広い所でした。

「法華経」は、日蓮宗以外の宗派の方もお経として読まれるのですね。僕は、日蓮宗だけのお経だと思っていました。今から少しづつ勉強していきたいと思います

福引き大会の賞品が当たり
喜ばれる檀信徒の皆さん

御祝い・法事などの引き物、ご進物・ご贈答に

ひよ子本舗吉野堂　のお菓子を御愛用下さい。

桜ひよ子
福岡
限定販売
1 月～4 月頃
発売予定

ミルク風味の
やさしい味わいです

ひよ子のピィナンシェ

名菓詰合せ
ご希望により
各種詰合せに
できます。

名菓　ひよ子大野城サティ店
大野城市錦町 4 丁目 1-1　大野城サティ 1 階
TEL･FAX　092－592－2126

行事スナップあれこれ

9月20日　今年も咲き揃った境内の彼岸花

8/1　三沢清正公堂盆前大掃除
役員及び檀信徒有志15名により
お堂がきれいになりました。

8/22　清正公四百年遠忌出開帳法要
お清正公様像を拝礼され、お焼香され
る檀信徒の皆さん

8/22　清正公四百年遠忌出開帳法要
百年に一度の御縁を頂きに本堂は檀
信徒で一杯になりました。

12/12　年末大掃除
日頃の感謝をこめて広間を掃
除される檀信徒の皆さん

10月上旬　浄行様後方の
お会式桜が開花しました。

9/29　西筑組「お題目のつどい」
小石原　妙隆寺様にて
当山参加者の皆さんで記念撮影

12/27　正月お供え餅の為の餅つき
今年も綺麗な鏡餅が出来上がりまし
た。ありがとうございました。

12/19　信行会主催特別講演
講師に熊本県栄立寺住職村井
信照上人をお迎えしました

12/12　元寇園教会年末大掃除
役員及び檀信徒有志10名により
本堂並びに境内が綺麗になりました

平成23年行事予定（1月～7月）

◎1月1日（土）
・初参詣祝禱会
午前1時より

◎1月1日～3日（土～月）
・新春三ヶ日一部経読誦会
午前8時より

◎1月10日（成人の日）
・各家勧請守護神祭
・年頭施餓鬼供養会
・開運星祭り
・新春福引き大会
午後1時より

◎1月23日（第3日曜）
・寒修行会（婦人会主催）
午前10時より

◎2月6日（第1日曜）
・月祈祷祭、節分追儺会
午前10時より

◎2月27日（第4日曜）
・月施餓鬼供養会
午後1時より

◎3月6日（第1日曜）
・月祈祷祭　午前10時より

◎3月18～24日（金～木）
・春季彼岸棚経廻り
早朝より

◎3月27日（第4日曜）
・春季彼岸施餓鬼供養会
午後1時より

◎4月3日（第1日曜）
・月祈祷祭　午前10時より

◎4月10日（第2日曜）
・花まつり　釈尊降誕会
・月施餓鬼供養会
午後1時より

◎5月1日（第1日曜）
・月祈祷祭　午前10時より

◎5月29日（第5日曜）
・各家勧請守護神祭
・月施餓鬼供養会
・平成23年檀信徒総会
午後1時より

◎6月5日（第1日曜）
・月祈祷祭　午前10時より

◎6月26日（第4日曜）
・月施餓鬼供養会
午前11時より

◎7月3日（第1日曜）
・月祈祷祭　午前10時より

◎7月24日（第4日曜）
・土用丑秘法灸大祈祷会
・月施餓鬼供養会
午後1時より

※行事予定日・時間は、変更させて頂くことがありますので、事前に発送します案内でご確認下さい。

◎毎月　第1日曜日は
・信行会（12時より）
（8月・12月・1月は諸行事の為休みます）
・三沢清正公堂お参り
（午後より）

≪御霊屋・納骨堂　加入者募集≫

○近代的格調高い
○耐久性にすぐれる
○御先祖様をおまつりするのに相応しい荘厳な佇まい

※一時払い不可能な方は、分割払い制度をご利用下さい。
※詳しくは、お寺又は護持会事務局までお問い合わせ下さい。

春日山　妙教寺　092－581－1266

発行所　非売品
大野城市錦町二丁目一番二七号
春日山　妙教寺
〇九二（五八一）一二六六